

お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第9弾をお届けします。
(シリーズ担当：R. I.)

9. 陸稲

陸稲 Upland rice または Rainfed upland rice は、通常、畦畔を設けず、平場かあるいは僅かな傾斜がある畑地で栽培される稲です。世界の陸稲栽培を見ますと、近代的な育成品種よりむしろ伝統的な在来品種の栽培が主であり、平均収量は 1t/ha に満たない低収量です。ここでは通常、直播栽培をします。また、稲単作よりむしろ他作物との混作（トウモロコシや豆類などと稲）や輪作（稲作を連続するのではなく、作目を替えて栽培する）が主です。世界全体の稲作面積 1 億 5000 万 ha の内、陸稲の栽培面積は 9% です。その内訳は、アジアで 900 万 ha、中南米で 300 万 ha、アフリカで 200 万 ha です（Rice Almanac, 2013）。



写真 9-1 焼畑後の陸稲栽培（シエラレオネ）

写真は、シエラレオネで撮影した焼き畑での陸稲栽培です。ここでは、山林を焼き払ってから、陸稲を直播栽培しますが、稲は 1 作のみで連作できないので、翌年は豆類か野菜を栽培します。このように、焼き畑後陸稲を含めて 3 年（3 作）ほど栽培したら、別の地に移り、そこをまた焼き畑にします。こうして 5~7 カ所を回って元の場所に戻ってくると、最初に焼き畑をした場所には灌木が生え茂っているので、また焼き畑にするのです。このように、焼き畑農業では、陸稲が栽培されますが、それはアジアやアフリカの発展途上国で主に行われています。一方、南米の陸稲栽培は大型農業機械を用いた近代農法で栽培されていますので、その差は比較できません。しかし、一般に陸稲は、完全な降雨依存型農法であり、大変粗放な栽培に依存せざるを得ません。

また、陸稲は連作が効かないので、日本でも夏作に陸稲を栽培する畑には、冬作に野菜を栽培します。そうすれば、毎年陸稲栽培を続けられます。水稻の場合は、日本のように 1 年 1 作だけでも連作できますが、それは、灌漑水によって連作障害を起こすような原因物質を洗い流してしまうからとされています。陸稲も 2 年までは連作ができるとも聞きますが、それでも陸稲単作を 3 年続けると収量が激減するそうです。これは、野菜栽培ではよく知られている、「連作障害」、つまり「忌地（いやじ）現象」ですね。

なお、日本の陸稲栽培は、そのほとんどが糯品種です。水稻の糯は、搗いて食べる餅になりますが、陸稲の糯は、加工用しておかきやあられになります。大きい方がおかきで、小さい方をあられとしているようです。なお、せんべいは、ほとんどが水稻の粳（うるち）米で作られます。

今回は、洪水常発地稲についてお話しします。お楽しみに。